

糧となるもの―娘と共に

わたなべひよか
渡辺鶴禾

1

待望の娘は先天の病持ち病院巡るお七夜の晩

心臓に障がい持ちし娘の笑顔軽く担ぎし母なる枷を

娘の根治手術が最後受けし後運動会で走る娘よ

風邪の菌娘の脳に入り急性の脳症と告ぐ医師の口もと

てんかんの発作起こせし娘と共に我と施設員病院へ行く
入院し娘は看護師を困らせしパン千切り投げ紙おむつ裂く
ストレスを晴らして娘退院し施設に戻るいつもの娘
洋服も自力で着れぬ娘を持てば不良娘の何と可愛い
盆明けに娘は退院し七歳児脳年齢は生後二ヶ月
療育の手帳に貼りし写真には幼稚園服着て笑う娘よ
娘を父に預けて家事をこなしつつ老いたる父に甘える私
十歳を迎えて施設入所する六人家族年毎に減る
次女が変「心理テスト」の診断は三種の病抱え持ちたり
障がい者手帳に貼りし写真にはスーツ姿の面接写真
我の行くデイケア美男美女ぞろい三十路が多く心浮き立つ